

## 2 フランシスコ修道僧

- 灰色の衣の<sup>たくはつ</sup>托鉢修道僧が  
祈りを<sup>とな</sup>唱えに出かけてゆくと  
巡礼の衣をまとった  
ひとりの美しい女性に出逢った
- 「修道士様 あなたにキリスト様の御加護がありますように 5  
どうか お教え下さい  
むこうの<sup>やかた</sup>聖なる館で  
わたしの恋人に お逢いにならなかったでしょうか」
- 「たくさんの人の中から  
どうすれば あなたの恋人が見分けられましょう」 10  
「それは鳥貝の<sup>かさ つえ</sup>笠と杖で  
それは そのかたの<sup>わらじ</sup>草鞋で見分けられます
- でもとくに <sup>うるわ</sup>みめ麗しい  
そのかたのお顔と物腰で  
きれいに巻いた<sup>あさ</sup>亜麻色の髪の毛と 15  
すてきな青い目とで見分けられます」
- 「ああ ご婦人よ その人なら死んで今はあの世に  
ご婦人よ その人は死んで今はあの世に  
そして その人の枕元には青草繁り  
その人の足元には 墓石が 20
- 修道院でながいこと  
その人は 苦しみつづけて亡くなりました  
あるご婦人のつれない愛に涙をながし  
その婦人の<sup>かた</sup>高ぶる心を<sup>うら</sup>怨みながら
- その人は 顔も隠さず棺架に乗せられ 25  
六人の背の高い 立派な若者たちに運はれて

むこうの教会の囲いのうちで  
涙の雨が その人の墓を濡らしました」

「やさしい恋人よ あなたは死んで  
あなたは死んで 今はあの世に 30  
しかも わたしへの<sup>おも</sup>想いに<sup>こ</sup>焦がれて<sup>い</sup>逝ってしまった  
冷たい石の心よ <sup>くだ</sup>砕けてしまえ」

「ご婦人よ 泣かないで そんなに泣かないで  
神様のお慰めを おもとめなさい  
むなしい<sup>ほほ</sup>悲しみで 心を苦しめるのは 35  
涙で<sup>ほほ</sup>頬を濡らすのは およしなさい」

「ああ 修道士様 どうか  
わたしの<sup>とが</sup>悲しみを<sup>とが</sup>咎めないで  
この世で一番やさしい恋人を亡くしたのです  
むかし ひとりの女の心をうばった恋人を 40

ああ 今となっては 悲しいあなたの死を  
わたしは いつまでも泣いて嘆きましょう  
あなたのためにこそ 生きたいとおもってきました  
今となっては あなたのために死にたいおもい」

「ご婦人よ もう泣かないで 泣かないで 45  
どんなに悲しんでも 無駄なこと  
摘みとられた<sup>すみれ</sup>堇の花は 二度とふたたび  
どんなにすてきな雨にも 咲きかえることはないのです

人の世の喜びは 翼のはえた夢のように<sup>はかな</sup>儂いもの  
ならばどうして 悲しみとてつづきましょう 50  
悲しみは 亡くしたもののへの想いを増すばかり  
だからもう 過ぎたことで悲しむのはおよしなさい」

「修道士様 そのようにおっしゃらないで  
後生ですから おっしゃらないで  
恋人が わたしへの想いに焦がれて逝ってしまったからは 55  
わたしの涙が流れるのも 当然のこと

あのかたは もう戻つてはいらっしゃらないの  
二度と戻つてはいらっしゃらないのでしょうか  
ああ そうね あのかたは死んでお墓の中  
いつまでも お墓の中にいらっしゃる 60

頬はバラより赤く  
この世でいちばん美しい恋人でした  
でもその人は いまは死んでお墓の中  
ああ なんと悲しいことでしょう」

「ご婦人よ もう嘆かないで 嘆かないで 65  
男は いつでも裏切り者  
片足は海のうえ 片足は陸<sup>おか</sup>のうえ  
ひとつのものに 心を留めることはないのです

あなたは冷たかったと悔やまれますが 彼こそ不実な男  
あなたを捨てて 悲しく辛い<sup>つら</sup>想いをさせたのです 70  
その昔 夏の樹に葉が繁ったとき以来  
若者の心変わりは 人の世の常」

「修道士様 そのようにおっしゃらないで  
後生ですから おっしゃらないで  
わたしの恋人は このうえもない真心のかた 75  
ああ 恋人は 変わらぬ真心のかたでした

愛する恋人よ あなたは逝ってしまったのね  
わたしへの想いに焦がれて 逝ってしまったのね  
されば 故郷よ さようなら 永久<sup>とわ</sup>にもう  
わたしは 巡礼の道を選びましょう 80

でもそのまえに 恋人のお墓のうえに  
疲れた<sup>からだ</sup> 躰を横たえましょう  
あのかたの息絶えた肉塊<sup>からだ</sup>をつつむ青草に  
三度 接吻しましょう」

「いいえ お待ち下さい 美しいご婦人よ 85

修道院の囲いの下で しばらくお休みください  
ごらんなさい 冷たい風が山査子<sup>さんざし</sup>を吹きぬけ  
霧雨が おちてきました」

「修道士様 どうぞ引きとめないで  
ああ 後生ですから 引きとめないで 90  
この身に降りそそぐどんな霧雨も  
わたしの過<sup>あやま</sup>ちを 洗い流してはくれません」

「いいえ お待ちください 美しいご婦人よ  
こちらをむいて その真珠の涙をぬぐってください  
ごらんなさい この灰色の衣の下は 95  
あなたのみことの恋人です

悲しみと希望のない愛のために 無理やりに  
こうして神の衣をもとめたのです  
そうして この寂しい館<sup>やかた</sup>の囲いのうちで  
生涯を終えようと おもっておりました 100

でも幸いに わたしの修練期間は  
まだ了っておりません  
今でもまだ あなたの愛を得ることができれば  
もうここには とどまりません」

「悲しみよ さようなら そして喜びよ 105  
もう一度 わたしの心によろこそ  
恋人よ こうしてあなたをみつけたからは  
二人は二度ともう 別れることはないでしょう」

(山中光義訳)